

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第1週の発生動向

### トピックス

- ・**インフルエンザ (定点把握の対象となる5類感染症)** の定点当たりの報告数が1.2と、流行期の目安となる1.0を超えました。昨シーズンと比較して4週遅い流行入りです。今シーズン県内ではAH1pdm09型が検出されています。詳細後述。
- ・**流行性耳下腺炎 (定点把握の対象となる5類感染症)** の定点当たり報告数が4.1と、流行注意報基準値3.0を超えました。詳細後述。

### 全数報告の感染症 (1週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核9例。3類感染症：報告なし。4類感染症：つつが虫病2例。5類感染症：アメーバ赤痢1例、カルバペネム耐性腸内細菌感染症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	0~4歳	男	肺結核及び粟粒結核、結核性髄膜炎	意識障害、痙攣
			10歳代	男	無症状病原体保有者	—
			20歳代	女	肺結核	発熱
			40歳代	女	肺結核	症状なし
			50歳代	女	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	無症状病原体保有者	—
		延岡	70歳代	男	肺結核	咳、痰
		日向	30歳代	男	無症状病原体保有者	—
			70歳代	女	無症状病原体保有者	—
4類	つつが虫病	宮崎市	50歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹
		日南	60歳代	男	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹
5類	アメーバ赤痢	都城	60歳代	男	腸管アメーバ症	便潜血、盲腸潰瘍
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	宮崎市	70歳代	女	—	胆管炎 菌種: <i>Enterobacter aerogenes</i>
	クロイツフェルト・ヤコブ病	宮崎市	60歳代	男	古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD) 診断の確実度: ほぼ確実	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路・錐体外路症状、視覚異常、無動性無言状態、記憶障害等

## □ 定点把握の対象となる5類感染症

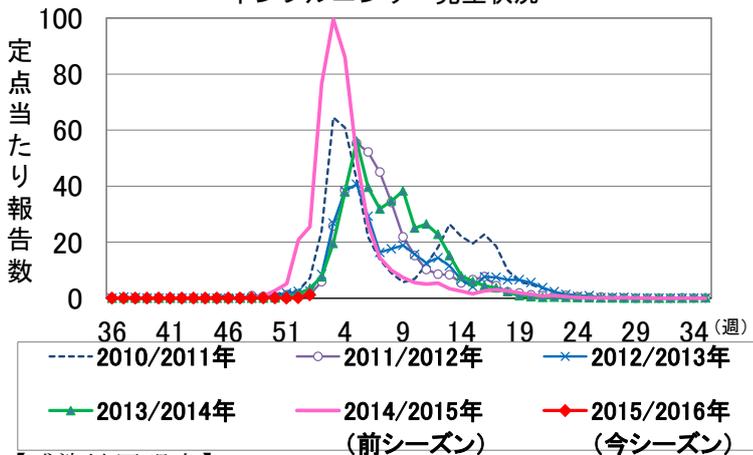
・定点医療機関からの報告総数は921人（定点当たり29.0）で、前週比206%と増加した（前週年末年始の休診含む）。前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと伝染性紅斑と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患は手足口病であった。

### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

#### 【インフルエンザ】

・報告数は71人（1.2）で、前週比355%と大幅に増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*（12.8）の約0.1倍であった。年齢別では5歳未満が全体の32%、5-9歳が25%、10-14歳が10%、15-19歳が3%、20-59歳が23%、60歳以上が7%を占めた。

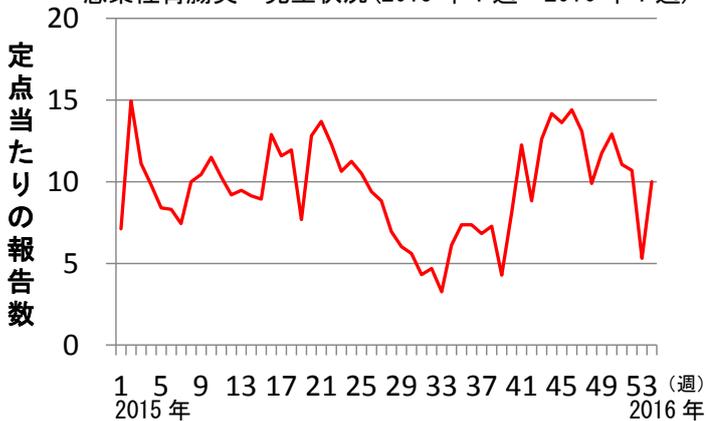
\* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値  
インフルエンザ 発生状況



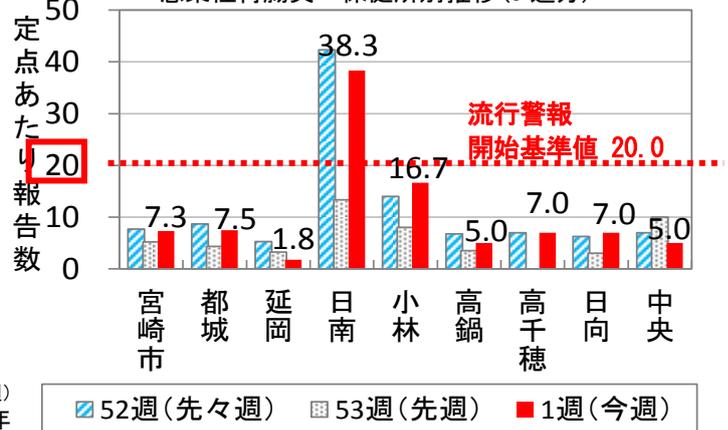
#### 【感染性胃腸炎】

・報告数は350人（9.7）で、前週比183%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*（15.1）の約0.6倍であった。日南（38.3）保健所からの報告が多く、年齢別では1-4歳が全体の約4割を占めた。

感染性胃腸炎 発生状況 (2015年1週～2016年1週)



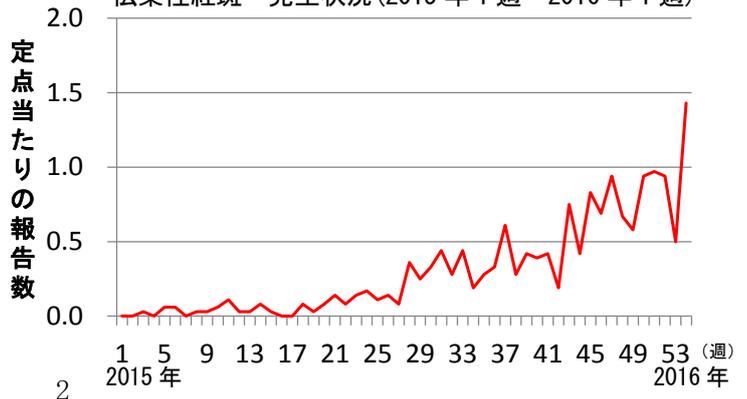
感染性胃腸炎 保健所別推移 (3週分)



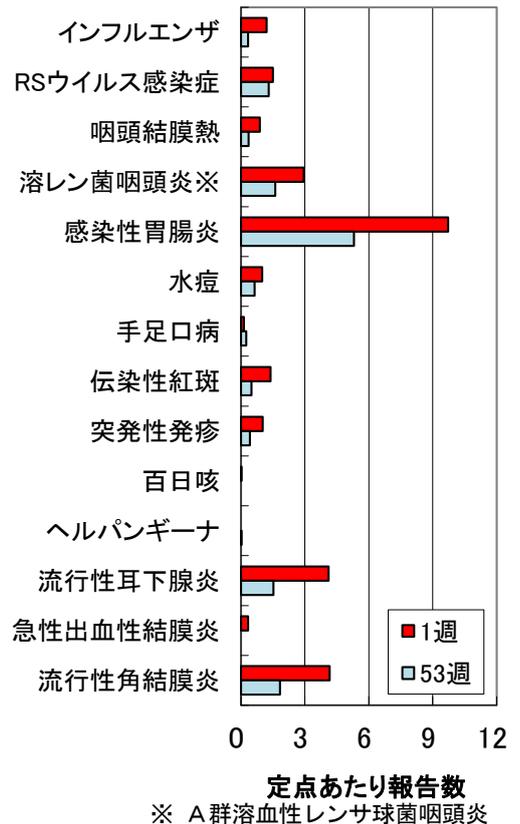
#### 【伝染性紅斑】

・報告数は50人（1.4）で、前週比278%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*（0.20）の約7.0倍であった。宮崎市（2.1）、高鍋及び中央（各2.0）保健所からの報告が多く、年齢別では3-7歳が全体の約7割を占めた。

伝染性紅斑 発生状況 (2015年1週～2016年1週)



《前週との比較》

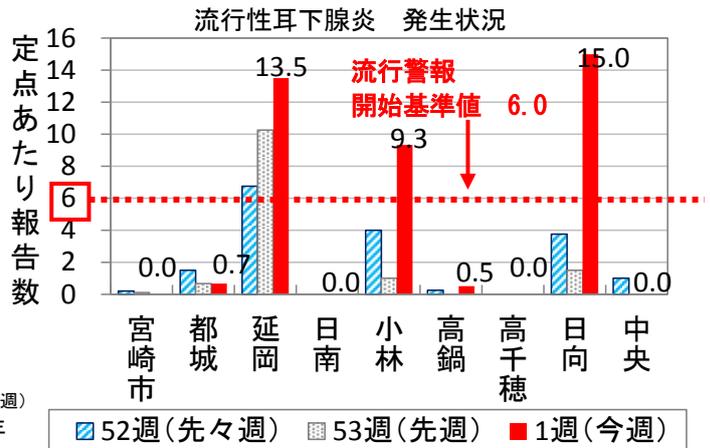
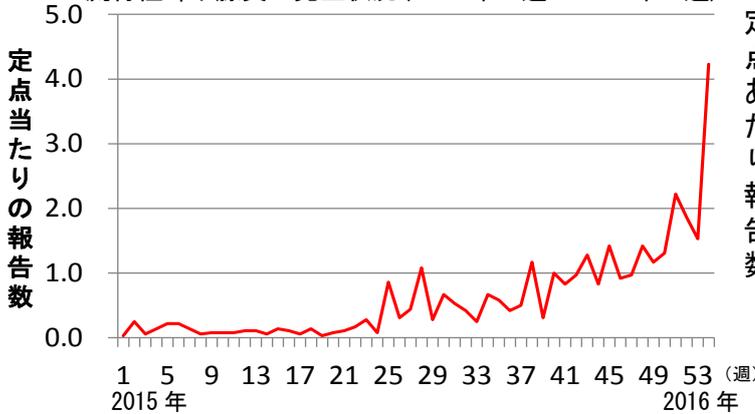


※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【流行性耳下腺炎】

・報告数は 148 人 (4.1) で、前週比 269%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\* (1.1) の約 3.6 倍であった。日向(15.0)、延岡(13.5)、小林(9.3)保健所からの報告が多く、年齢別では 5~6 歳が全体の約 4 割を占めた。

流行性耳下腺炎 発生状況 (2015 年 1 週~2016 年 1 週)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所から 4 例報告があった。1~4 歳及び 10 歳代が各 2 例で、いずれも咽頭ぬぐい液から *Mycoplasma pneumoniae* が検出された。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	伝染性紅斑(2.1)
都城	なし
延岡	流行性耳下腺炎(13.5)
日南	感染性胃腸炎(38.3)
小林	流行性耳下腺炎(9.3)
高鍋	伝染性紅斑(2.0)
高千穂	なし
日向	流行性耳下腺炎(15.0)
中央	伝染性紅斑(2.0)

\*流行警報レベル開始基準値\*

- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

🇯🇵 全国 2015 年第 53 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 53 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	150 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6 例				
4類感染症	E 型肝炎	1 例	A 型肝炎	2 例	つつが虫病	4 例
	デング熱	3 例	レジオネラ症	9 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	9 例	急性脳炎	6 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 例	後天性免疫不全症候群	3 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	23 例	水痘 (入院例)	2 例	梅毒	19 例
	播種性クリプトコックス症	1 例	破傷風	3 例		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 50%と減少した (年末年始の休診含む)。前週と比較して増加した疾患はインフルエンザで、その他の疾患は横ばいもしくは減少した。

インフルエンザの報告数 4,290 人 (0.89) で前週比 117%と増加した。秋田県 (7.6)、沖縄県 (6.1)、北海道 (2.7) からの報告が多く、流行期の指標となる 1.0 を超過した都道府県は 7 県であった。年齢別では、5 歳未満が 14%、5-9 歳が 18%、10-14 歳が 11%、15-19 歳が 6%、20-59 歳が 43%、60 歳以上が 8%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第1週(1月4日～1月10日)

疾病名		第53週	第1週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	20	71	7	13	14	3	16	4		12	2
	定点あたり	0.34	1.20	0.44	1.30	2.00	0.60	3.20	0.67	0.00	2.00	1.00
RSウイルス 感染症	報告数	47	54	8		13	6	1	7		18	1
	定点あたり	1.31	1.50	0.80	0.00	3.25	2.00	0.33	1.75	0.00	4.50	1.00
咽頭結膜熱	報告数	13	32	7	2	3	5		4		10	1
	定点あたり	0.36	0.89	0.70	0.33	0.75	1.67	0.00	1.00	0.00	2.50	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	58	106	26	12	15	22	4	9	1	16	1
	定点あたり	1.61	2.94	2.60	2.00	3.75	7.33	1.33	2.25	1.00	4.00	1.00
感染性胃腸炎	報告数	191	350	73	45	7	115	50	20	7	28	5
	定点あたり	5.31	9.72	7.30	7.50	1.75	38.33	16.67	5.00	7.00	7.00	5.00
水痘	報告数	23	36	13	6	3	1		5		6	2
	定点あたり	0.64	1.00	1.30	1.00	0.75	0.33	0.00	1.25	0.00	1.50	2.00
手足口病	報告数	9	5	1		4						
	定点あたり	0.25	0.14	0.10	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	18	50	21	6	7		4	8	1	1	2
	定点あたり	0.50	1.39	2.10	1.00	1.75	0.00	1.33	2.00	1.00	0.25	2.00
突発性発しん	報告数	15	37	12	3	7	4	3	4	1	3	
	定点あたり	0.42	1.03	1.20	0.50	1.75	1.33	1.00	1.00	1.00	0.75	0.00
百日咳	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	55	148		4	54		28	2		60	
	定点あたり	1.53	4.11	0.00	0.67	13.50	0.00	9.33	0.50	0.00	15.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数		2	2								
	定点あたり	0.00	0.33	0.67	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	11	25	20	5							
	定点あたり	1.83	4.17	6.67	2.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数		4	4								
	定点あたり	0.00	0.57	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週)

2類感染症	結核	9例(9)			
4類感染症	つつが虫病	2例(2)			
5類感染症	アメーバ赤痢	1例(1)	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例(1)	クロイツフェルト・ヤコブ病

( )内は今週届出分、再掲

## 月報告対象疾患の発生動向 <2015年12月>

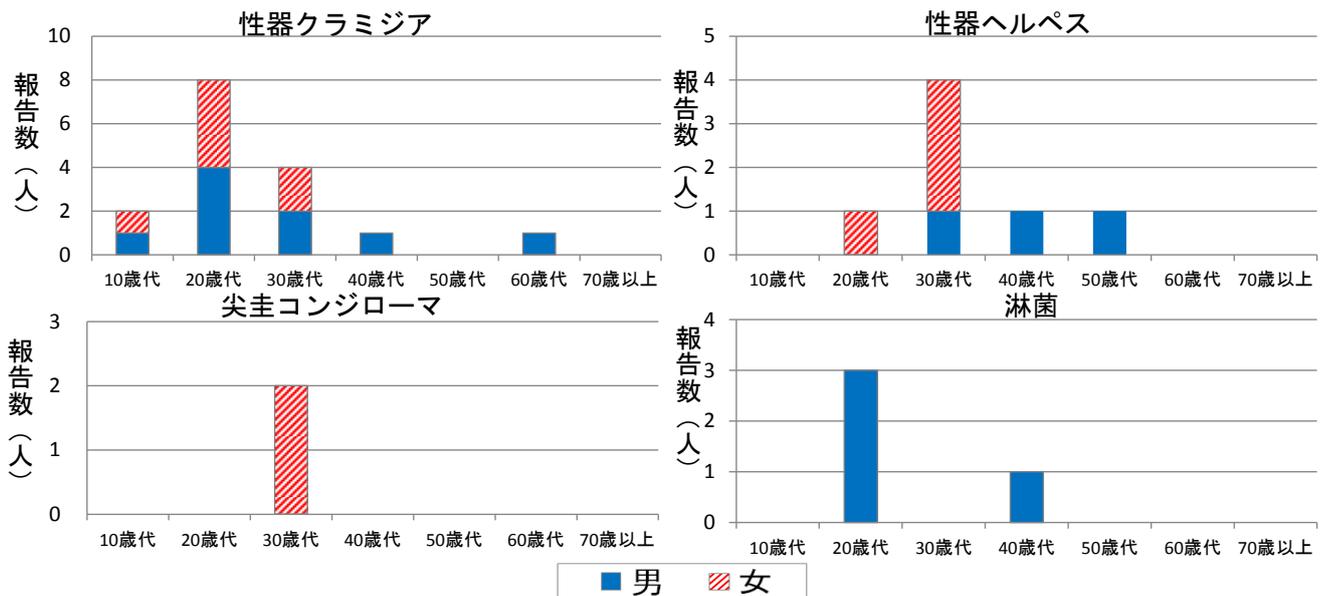
### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は29人(2.2)で、前月比81%と減少した。また、昨年12月(2.9)の78%であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数16人(1.2)で、前月及び昨年12月の約0.6倍であった。20歳代が全体の半数を占めた。(男性9人・女性7人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数7人(0.54)で、前月の約2.3倍、昨年12月の7.0倍であった。(男性3人・女性4人)
- 尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月と同じ、昨年12月の2.0倍であった。(女性2人)
- 淋菌感染症：報告数4人(0.31)で、前月と同じ、昨年12月の0.4倍であった。(男性4人)



【全国】 定点医療機関総数：977

定点医療機関からの報告総数は3,801人(3.9)で、前月比99%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,948人(1.99)で前月比99%、性器ヘルペスウイルス感染症722人(0.74)で前月比109%、尖圭コンジローマ434人(0.44)で前月比88%、淋菌感染症697人(0.71)で前月比96%であった。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は19人(2.7)で前月比76%と減少した。また昨年12月(3.0)の約0.9倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人(2.4)で、前月の約0.7倍、昨年12月の約0.9倍であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で、前月及び昨年12月と同じであった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数1人(0.14)で、昨年12月と同じであった。(前月報告なし)

【全国】 定点医療機関総数：475

定点医療機関からの報告総数は1,571人(3.3)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,362人(2.9)で前月比102%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症194人(0.41)で前月比121%、薬剤耐性緑膿菌感染症15人(0.03)で前月比75%であった。